

ACCU news

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

特集「日本の、世界のASPnet ——これからのユネスコスクール——」……2

第13回全日本高校模擬国連大会……6

タイ政府日本教職員招へいプログラム

タイ教職員招へいプログラム……7

インド教職員招へいプログラム……8

中国教職員招へいプログラム……8

ハッピースクールプロジェクト……9

地域に根差したESDパイロットプロジェクト……9

書籍『変容につながる16のアプローチ

～SDGsを活かした学校教員の取組』……10

ACCUワークショップ2019

「博物館における文化財写真の撮影技法」……10

活動メモ……11

No. **410**
2020年2月号



ACCU

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

日本の、世界のASPnet

これからのユネスコスクール

ACCUは、長年にわたり事務局運営を中心としたユネスコスクール支援事業を実施してきました。今年度は特に、海外のユネスコスクールについて知る機会に多く恵まれましたので、お国柄あふれる各国のユネスコスクール事情をご紹介します。

この特集では日本と外国のユネスコスクールの特徴や国内事業の成果をふまえ、今後のユネスコスクールのあり方を考えていきます。

[ASPnet：ユネスコスクールとは？]

ユネスコスクールは、ユネスコの理念や目的を学校のあらゆる面に位置づけ、「児童生徒の心の中に平和のとりでを築く」ことを目指す、世界的な学校間ネットワークです。世界ではASPnet：

Associated Schools Network と呼ばれ、1953年に国際理解のための教育開発プロジェクトとして発足しました。現在世界で182か国11,000校以上の学校が加盟しています。



日本のユネスコスクール

日本には2019年10月時点で1,116校の加盟校があります。持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）の提唱国として、2008年以降ユネスコスクールをESD推進拠点に位置付け加盟校増加に取り組んだ結果、それまで数十校であった国内のユネスコスクールが、世界の約1割を擁するまでに発展しました。

こうした劇的な数の拡大には、地方自治体の積極的な関与も少なからず影響しています。地方創生とESDに親和性を見出す自治体も多く、ESDを軸とした教育施策を展開する中で、所轄のすべての学校がユネスコスクールに加盟している自治体もあります。そのような背景もあり、日本の加盟校は公立校、特に小学校が多いという特徴があります。

また、日本のユネスコスクールには独自の支援体制「ASPUnivNet（ユネスコスクール支援大学間ネットワーク）」が

あります。2019年12月時点で全国23大学が加盟しており、個別の指導助言やユネスコスクール向けの研修会の実施など、加盟申請中から加盟後まで、地域のユネスコスクールに寄り添いながら学際的な知見を活かして支援を行っています。

日本のユネスコスクールでは、ESD

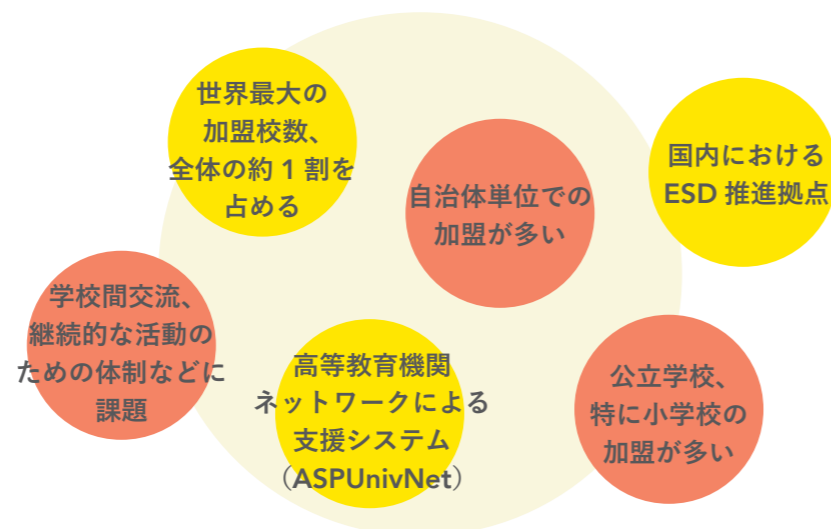
推進における先進的な取組が行われ、ESDカレンダーによるカリキュラム・マネジメントや、加盟校を中心としたサステイナブルスクールによる包括的な学校運営（ホールスクールアプローチ）、ハッピースクール事業による学校全体における幸福感を高める試みなど、ネット

ワークを基盤とした、さまざまな活動を行っています。海外との交流活動でも、こうした取組が紹介され、ESDの具体的な取組として評価されています。

一方で課題としては、ユネスコスクールの活動として推奨されている学校間交流が不十分であることや、特に公立学校においては担当教員の異動に伴う活動の縮小などがよく挙げられます。

ユネスコスクール事務局では、毎年加盟校に対して年次活動調査を実施しており、成果と課題を分析して次年度以降の事業に役立てています。

*1 調査結果はユネスコスクール公式ウェブサイトに掲載しています。
*2 Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標
*3 UNESCOアジア太平洋国際理解教育センター（Asia-Pacific Centre for Education for International Understanding under the Auspices of UNESCO）



国内におけるACCUの貢献

ACCUでは、ユネスコスクール事務局としての基本業務に加え、今年度もさまざまなユネスコスクール向けのイベントやプロジェクトを実施しました。ここでは2つのイベントについてご紹介します。

ユネスコスクール 関東ブロック大会 2019

2019年10月、関東圏のASPUnivNet加盟4大学および神奈川県ユネスコスクール連絡協議会との共催で、「SDGs達成に向けたユネスコスクールと地域の連携」をテーマにユネスコスクール関東ブロック大会を開催しました。韓国よりAPCEIU所長を迎えて日韓の連携の可能性について示唆を得たほか、各大学・団体の得意分野に応じて「平和・人権」「気候変動」「地域連携」「多文化共生」「海外連携」の5つの分科会を開催し、大学の知見の還元やネットワーク強化のための交流の場として参加者からも好評を得ました。今回関東圏の6つの組織が大会を共同運営する中で、私たち自身、地域レベルでの交流やネットワーク強化の重要性を改めて認識するに至り、その効果も実感しました。

第11回ユネスコスクール 全国大会

今年度ACCUが実施してきたSDGsカリキュラム/教材開発事業の経験を活かし、「SDGs教材の開発をどう進めるかー児童生徒の行動変容を視点に」という分科会を担当しました。「教員による教員のためのSDGs教材」をコンセプトに、ユネスコスクールの先生方を中心に熱意と力量にあふれる18名のメンバーで事業に取り組む中で得た本質は、教材を活かせる「学校づくり」と「教員の变容」こそが重要という視点でした。分科会では、事業参加メンバーの2名の先生方にご自身の経験をお話いただいた後、参加者同士の対話を通してSDGs教材の活用やSDGsに向かう学校や教員のあり方を議論しました。



海外のユネスコスクール

ブラジル



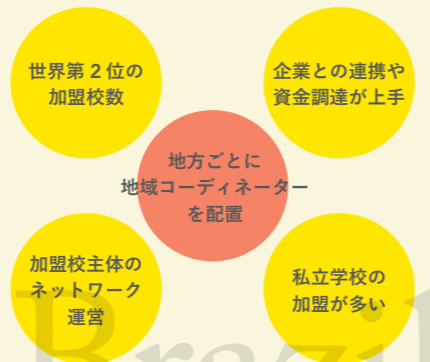
©Rede PEA-UNESCO Brasil

2017年にブラジルのユネスコスクール教員訪日研修の受入れを行った縁で、2019年9月にブラジルのユネスコスクール全国大会にご招待いただき、職員2名が参加しました。

ブラジルは2019年時点で約570校が加盟しており、日本に次いで世界で2番目に加盟校の多い国です。特筆すべきは、ブラジルのユネスコスクールは非常に強固なネットワークを自主的に形成しており、事務局や国内のまとめ役であるナショナルコーディネーター^{*4}も加盟校の教員らが務めていることです。また、各州に地域コーディネーターを配置し、地方レベルのネットワークも機能しています。このような背景から、全体として大変主体性があり、大会にも自ら参加費や旅費を出して多くの先生方が参加しています。ただ一方で、その成り立ちから現状では私立学校の加盟が多く、今後は公立学校への働きかけを一層促進していきたいと

のことでした。大会は、メディアリテラシーやICTの活用といった今日的なテーマからアマゾンの先住民族文化まで、企業や大学なども巻き込んで多様なテーマでプログラムが生まれ、終始明るい雰囲気でも活気にあふれていたのが印象的でした。

ACCUからも日本のユネスコスクールについて発表し、多くの方々に関心を持っていただくことができました。

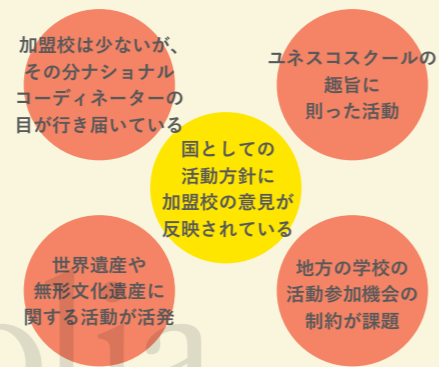


モンゴル

2019年10月、ユネスコ北京事務所と東アジア4か国(日本、中国、韓国、モンゴル)のナショナルコーディネーターからなる会合にACCUも参加の機会を得ました。韓国、日本での開催に続き3回目となる今回は、モンゴルがホストとなり、東アジア地域のユネスコスクールネットワークの更なる活性化を見据えた新規事業の構想なども含め、建設的な議論が交わされました。

モンゴルには2019年時点で13の加盟校があり、モンゴルユネスコ国内委員会主導で大変積極的に活動を展開しています。ユネスコ主催の国際会議に加盟校教員や生徒を派遣したり、様々な国際デーを記念してエッセイや絵画などのコンテストを実施したり、ユネスコスクールの趣旨に則り、上手に機会を活用して活動を行っている印象を受けました。また、世界遺産や無形文化遺産を活用した教育活動も活発に行われているようでした。

これらの活動は、全加盟校の校長とナショナルコーディネーターが年に一度集まり、次年度の活動について協議して決定しているそうです。そのため、学校の意識も総じて高く、小規模ネットワークの強みが活かされていると感じました。一方で、広大な国土をもちながら首都ウランバートルに人口の半数近くが居住するともいわれるモンゴルでは、地方の学校が活動に参加することへの制約が多いとの課題もあります。



*4 ユネスコとの連携調整及び国内調整を担う各国の代表者

韓国

林賢黙氏



ユネスコスクール関東ブロック大会(P3参照)に韓国よりAPCEIU所長林賢黙氏をゲストとしてお招きし、基調講演にて韓国のユネスコスクールについてお話いただきました。

韓国では2019年時点で607校が加盟しているとされていますが、実はこの数は韓国ユネスコ国内委員会が認定した国内レベルの加盟校とユネスコが認定した国際レベルの加盟校の合算であり、厳密な意味での「ユネスコスクール」は国際レベルの108校です。国内レベルの加盟校も国際レベルの学校と同様の支援を受け、事業にも参加できることから、実質的には手続き上の差程度しかありませんが、現在すべての学校を国際レベルの加盟校にする方向で取り組んでいるとの

ことです。また、韓国でも各地の教育委員会を中心とした「地域協議会」が構成されており、ブラジルなどと同様に地方レベルでの活動を支援するシステムがあります。

韓国では、活動分野としてESDなどとならび地球市民教育(GCED: Global Citizenship Education^{*5})に力を入れているのが1つの特徴です。校種別では高等学校が最も多く、それ故か、生徒向けの事業も充実しています。

課題としては、活動がまだ一部の教員や生徒に限られるケースが多いこと、教員の多忙、言語の壁、教材や研修機会がニーズに追いついていないこと、など、日本の課題と共通する部分が多くあることがわかりました。



これからのユネスコスクール

今、世界ではSDGsという共通目標が掲げられ、持続可能で平和な社会を希求する動きが加速しています。SDGsの達成に向けて教育がすべてのゴールの基盤となるといわれる中、ユネスコスクールの意義・目的はまさにその趣旨にかなうものであり、そのような教育活動の体現者としての期待が高まっています。

また、国内においても、2020年から全面实施される新学習指導要領に「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられており、ESDがこれからの日本の教育に通底する概念として注目される中、ユネスコスクールはESD推進拠点として

の役割をますます意識して取り組んでいく必要があります。そのためには、学校内や学校間に留まらず、地域の行政やNPOなどの組織との連携が不可欠です。ACCUは全国レベルの事業が多いですが、ASPUivNetや各地の関連団体と連携し、地域に根差した支援にも前向きに取り組んでいきたいと考えています。

世界一の加盟校数を誇る日本が名実ともにユネスコスクールの先導的役割を果たすためには、世界各国のユネスコスクールから積極的に良い点を学び、取り入れ、また私たちの経験も惜しみなく共有してネットワーク全体の発展に貢献し

ていくという意識をもつこと、またこれからの時代の教育の牽引者として挑戦を続けていくことが大切なのではないかと考えます。

ACCUはこれからも国内外で得た有益な情報を皆様にお届けし、交流や学び合いの場を提供していくとともに、自らも常にアンテナを高く張り、より質の高いユネスコスクール支援事業を追求していきます。

*5 GCEDは、学習者が国際的な諸問題に向き合い、その解決に向けて地域レベル及び国際レベルで積極的な役割を担うようにすることで、平和的で、寛容な、包括的、安全で持続可能な世界の構築に率先して貢献するようになることを目指すものである。SDGsの目標4ではESDと併記されてターゲットに明記されている。

第13回全日本高校模擬国連大会

白熱した議論が 繰り広げられた2日間!

国際教育交流部 天満 実嘉



国名のプラカードを掲げて意思表示します

2019年11月16日(土)～17日(日)、東京ビッグサイト タイム24ビル(東京都江東区)にて、第13回全日本高校模擬国連大会を開催しました。おかげさまで、模擬国連活動への関心は年々高まっており、今大会は、過去最高となる全国253チームからご応募いただきました。書類選考で選ばれた86チーム172名の高校生たちは、「死刑モラトリアム(Moratorium on the use of death penalty)」を議題とした“模擬”国連総会の場で、2日間にわたり白熱した議論を繰り広げました。約1か月前より担当国大使の立場から議題についてのリサーチを行い、挑んだ大会本番です。2日間、会場は最後までエネルギーに溢れていました。難しい議題にも果敢に挑み、臆することなく議論する姿に「自分が高校生のとき、こんなことができたのだろうか…」と思わず圧倒されてしまいました。大会で受賞した8チーム16名の高校生は2020年5月に米国ニューヨーク市で開催される高校模擬国連国際大会に日本代表団として派遣されます。

高校生による模擬国連活動は、首都圏をはじめとする大都市では活発な一方、一部地域では本格的に取り

組む機会が限られているのが現状です。こうした中、2018年度より3年間限定で地域特別枠として、これまでに受賞経験のある高校がない都道府県に所在する高校を選考対象とする「地域特別賞」を設けています。今回は、この地域特別賞を愛媛県と北海道の高校が受賞しました。今後、これらの地域での模擬国連活動がますます活性化されることが期待されます。世界、そして地域での高校生たちの活躍に注目です。

実は、こうした日本での活発な模擬国連活動は海外からも関心が寄せられています。今大会にあわせて、モンゴル・ユネスコ国内委員会から Namuun Ganbat 氏が来日し、日本で模擬国連を指導する教員に対して、モンゴルでの「模擬国連活動」(Model UNESCO Mongolia) について講演をしていただきました。モンゴルでも“模擬”ユネスコ総会を議場とする全国規模の模擬国連活動が、

すでに過去5回にわたって行われています。講演に参加された先生方からは「モンゴルでこんなに活発な模擬国連活動が行われているなんて知らなかった!」、「モンゴルのイメージが変わった!」等といった感想も聞かれました(以下に一部ご紹介)。今後も未来のグローバルリーダー育成へ向けて尽力するとともに、若者が国境を越えて共に学び共に成長する機会を作っていきます!

DATA
開催日: 2019年11月16日(土)～17日(日)
参加者: 高校生172名
開催場所: 東京

全日本高校模擬国連大会の結果
受賞校8校: 桐蔭学園中等教育学校、海城中学高等学校、大妻高等学校、札幌日本大学高等学校、駒場東邦高等学校、渋谷教育学園渋谷高等学校、瀧高等学校、愛光高等学校
ポジションペーパー賞: 長野県立上田高等学校、鹿児島県立甲南高等学校

個別評価シートで結果を見ることができる

個人で応募

コミュニケーションアプリ: slackで情報共有

そうなんだ!
モンゴルの模擬国連!

1か国につき1人～3人の大使

「ユネスコ総会」を想定し、テーマはユネスコの5つの分野に関係する内容



閉会式後、172名の集合写真。意気込みが伝わります

タイ政府日本教職員招へいプログラム/タイ教職員招へいプログラム

国際教育交流部 高松 彩乃

「伝統文化教育」と「足るを知る経済」の哲学から学ぶ ——日本教職員のタイ派遣

2019年9月に実施された第2回となるタイ派遣プログラムでは、2つの地域で計4つの学校を訪問しました。各学校で訪問団に大きな印象を残したのは、伝統文化教育の実践と「足るを知る経済」の哲学を取り入れた教育活動です。舞踊、楽器演奏、機織りなど学校ごとにさまざまな文化を小学生から授業で学びます。地域の文化に対する関心の増大、文化を継承する担い手の育成という点のみならず、演奏や作品の発表を通して子どもたちの「自分たちはよいことをしている」という感情を育む、自信を持たせるというところにも大

きな意義があると訪問校の先生が語っていました。

また、ある学校では「足るを知る経済」の哲学を用いてSDGsの達成に向けた学校農園での無農薬野菜・果物の栽培等を通じた環境教育を実践していました。SDGsという言葉聞いたことがなくても「足るを知る経済」のことは皆知っているため、身近な考え方をを用いて活動を推進しているようでした。「学校全体が活動に対して関心を高める」「地球規模の課題を自分のこととして考えさせる」例として大きな学びとなりました。



選択授業として行われている機織りに挑戦(写真上)、無農薬栽培のバナナで作った伝統菓子(写真下)

DATA
実施期間: 2019年9月1日(日)～7日(土)
参加者: 7名(他、随行者2名)
訪問地域: タイ(バンコク、カンチャナブリー)



授業の良い点・改善点を出し合う日タイの教職員たち

「お客様」を超えた密な交流 ——タイ教職員の招へい

教職員の国際交流プログラムの参加者から「来客として見学するだけでなく、学校の一員として一緒に活動したい」という意見を毎年のように聞いています。訪問を受け入れる学校に無理のない範囲でそうした要望にも応えられるよう、プログラムの企画をしています。

今回のタイ教職員招へいプログラムで2日間滞在した徳島県上板町では、上板町立高志小学校への訪問を中心に、地域の人々と文化に触れる密な交流が行われました。タイ教職員が子どもたちに対して行う交流授業、そして藍染めや地域の食材での文化体験の他、今回は学校で実施している「授業研究」にタイの教職員

も参加し、見学した授業の指導について意見を交わす機会が提供されました。滞在2日目の最後に実施されたこともあり、打ち解けた雰囲気の中で日本とタイの教職員が入り交じっている姿が印象に残っています。

海外からのゲストとしてもてなして下さるだけでなく、同じ教育に携わる仲間として語り合える場を作って下さった、校長先生をはじめとした学校の皆さまの温かなお気持ちに心から感謝申し上げます。

DATA
実施期間: 2019年12月2日(月)～8日(日)
参加者: 15名
開催場所: 兵庫県神戸市、徳島県徳島市・上板町

*英語ではSufficiency Economy。タイの前国王であるラーマ9世が提唱した。

インド教職員招へいプログラム

日印教員交流会での親睦と相互理解

国際教育交流部 藤澤 弥生

今年で4回目となる「インド教職員招へいプログラム」ではインドの先生12人が来日しました。文部科学省で日本の教育に関する講義を受けた後、千葉県立松戸国際高等学校、府中市立府中第三小学校、府中市立府中第三中学校を訪問しました。学校では、授業や部活動の見学のほか、インドの先生が日本の児童・生徒にインド文化を紹介する授業を行ったり、昼食交流や意見交換会という交流の場をもつ事ができ、心の通じる忘れがたい経験をしました。

最終日には、日本全国から集まっ

た日本の先生とインドの先生が一日をかけて交流する「日印教員交流会」が開催されました。自由な会話の場を通して相互理解と親睦を深め、学校での国際交流の事例紹介をインドと日本の双方の先生が行いました。「国際交流」と「世界平和」との関係性について議論をし、「平和で持続可能な社会に向けた教育活動」について共に考える機会となりました。

インドの先生からは、「今まで国際交流が世界平和に対してできることは限定的だと考えていたが、プログラムを通じて世界平和を実現する

ためのベストな方法だと考えるようになった」といった声や、「インドも隣国とさまざまな問題を抱えているが、国際交流によってお互いの考えを理解するという小さな一歩はとても大切なこと。国際交流は隣国との問題解決に貢献すると思った」といった声が聞かれました。日印の学校間（中学校）でスカイプ等を使った交流を企画するなど、早速動き出している様子も見られました。平和で持続可能な社会の実現に向けて日印の連携への期待が高まります。

DATA

開催日：2019年10月13日(日)～20日(日)
参加者：インド教職員12名
開催場所：東京都、千葉県



日印教員交流会にて

ハッピースクールプロジェクト

国を越えて知識と実践を共有し学び合うことの大切さ

教育協力部 大類 由貴

ACCUが日本での国内調整を担当しているハッピースクールプロジェクトのセミナーに職員2名が参加しました。本事業は、学校での幸福感を高めることを目的に、ユネスコバンコク事務所が作成したガイドブックに基づいて日本・ラオス・タイで試験的事業を実施しています。

今回参加したセミナーはユネスコバンコク事務所主催で、学習者の幸福・社会性と情動の学習に関する知識・教育実践を共有し、学び合うことを目的として開催されました。本セミナーでは、参加国から本事業の

取組を紹介する場もあり、ACCUからは日本でのプロジェクトの概要と参加校へ実施した調査の結果について共有しました。その後、参加校の1つである福山市立福山中・高等学校の上山晋平教諭からハッピースクールの枠組みに沿った同校の活動について発表がありました。4月から今まで、短い期間にも関わらず、多くの教員・生徒・保護者・地域を巻き込み、先進的活動をされている同校に、参加者から多く関心が寄せられ、ACCUとしても嬉しい瞬間でした。

セミナーでは、生徒に幸せになってほしい、という気持ちはどの国の教員にも共通していますが、生徒の幸福感を高める活動は学校内であまり実践されていないことが指摘されていました。だからこそ、本事業の意義や生徒だけでなく教員を含めた学校全体で幸福を高める活動を行っている参加校の取組を、少しでも多くの学校へ広めていきたいです。

DATA

日時：2019年10月21日(月)～22日(火)
参加人数：45名
開催場所：バンコク



参加者全員で記念撮影 ©ユネスコ・バンコク事務所

中国教職員招へいプログラム

教育交流会で「持続可能な社会の創り手」を探る

国際教育交流部 伊藤 妙恵

招へいプログラムでは海外教職員に対して学びの機会を提供することが大きな要素ですが、受入れ側の教職員にとっても海外教職員から学べる機会を増やしたいと考えています。今年度は、訪問団と学校側の全体的な質疑応答のみならず、少ない人数による教育交流会が気仙沼市立鹿折小学校で実現しました。

当該校では、中国教職員約4名、

鹿折小学校教職員約3名の組み合わせによるグループを6つ作り、①学力向上に留まらず、学びに向かう力を伸ばすための教育とは？②学びの先にある、社会で活かせる資質能力をどう育てるか？③①～②に対して、学校や教育行政はどう応えていけばよいか？という3つの視点で話し合いました。

あるグループでは、見学した5年生の海洋教育の授業を切り口に、いかに自分の暮らす国や地域を愛する心を育てるかが話題になりました。見学した授業の単元は「漁業を支え

る産業」で、気仙沼の基幹産業である造船業を柱に、造船所で働く人、船の建造に関わる企業や人びとについて理解を深める内容です。1人の中国教員は、「この地の産業をみつめることはこの土地を知ること」であり、「国を愛する」というと壮大すぎるが、自分たちのふるさとを愛することから始めるのが大切なのだと述べました。

「国」を意識した教育を進める中国と個人の育成を進める日本の教育と方向性の違いはありますが、それぞれの国や地域、学校で目指すESDのあり方を探る時間となりました。

DATA

実施期間：2019年11月10日(日)～16日(土)
参加者：中国教職員25名
訪問場所：東京都、千葉県、宮城県気仙沼市

グループ内の話し合いを全体に共有する様子



地域に根差したESDパイロットプロジェクト

公民館における持続可能な地域のための学び

教育協力部 若山 洋子

2018年末に日本を含むアジア5か国で始まったユネスコバンコクの「地域に根差した持続可能な開発のための教育(ESD)パイロットプロジェクト」、日本では2019年夏、平塚市の4つの地区公民館において、ESDの視点を取り込んだ特色ある事業が地域の方々に提供されました。

元来、公民館では地域住民の需要に教育的視点から応える講座や事業が設定されており、そこにESDの概念を取り込むことでどのような付加価値が生まれるのか——現行の取組を「社会」「自然環境」「経済」「個

人の健康・幸福」といったESDのコンパスや、時間的・空間的広がりといった視点から丁寧に見直し、公民館職員や関係者に過度な負担をかけることなく持続可能な地域づくりへ向けた事業をデザインすることは、コーディネーターを務める我々ACCU職員にとっても大きな挑戦であり学びとなりました。

平塚市における事業成果は、11月にバンコクで開催された第2回プロジェクト会合において報告されました。一過性の研修ではない、対話を主軸においた地域ESDの推進ア

プローチは、この度の日本におけるパイロットプロジェクトの大きな特徴であり、事業全体への貢献点であったとも言えます。また、同月に岡山市で開催された、平塚市、大牟田市、岡山市の公民館職員交流会では、実践者間の学び合いの大きな可能性を感じました。2020年3月には、学び合いの輪をアジア太平洋地域へ広げた、地域ESD交流会を神奈川県平塚市で開催予定です。

DATA

地域に根差したESD公民館職員交流プログラム
開催日：2019年11月11日(月)～12日(火)
参加者：20名 開催場所：岡山市
地域に根差したESD第2回プロジェクト会合
開催日：2019年11月18日～20日
参加者：18名 開催場所：バンコク

グループ内の話し合いを全体に共有する様子



書籍『変容につながる16のアプローチ～SDGsを活かした学校教員の取組』

大切なのは「持続可能性とは何か」を問い続けること

教育協力部 篠田 真穂

2019年4月から教員とともに創り上げてきた書籍『変容につながる16のアプローチ～SDGsを活かした学校教員の取組』が完成します。

原稿を書き進める中で、2つの発見がありました。1つは書籍など教えるためのツールとして整理されたものだけではなく、地域の自然環境やその土地に暮らす人々、生物、すべてが「教材」になり得るということです。SDGsのレンズを通してこれらの「教材」を、授業に適応させていくのだ、とある教員は語ってくれました。2つ目の発見は、この

SDGsのレンズを手に入れるためには「持続可能性とは何か」を問い続けること、そしてそこへ向かうための道を、時流を捉える感性を研ぎ澄ませながら、一歩一歩楽しみながら歩んでいく必要があるということです。SDGsレンズとは、単にSDGsを知っているから手に入れられるわけではありません。この書籍の中で、各教員がどのように教材を活かした授業を創り上げたのか、その背景や経緯について言語化してもらいました。原稿を読んでいて思ったことは、どんな良質な書籍や教材も、それを



表紙(予定)

どう活かすかは扱う人の問題意識と感性にかかっているということです。制作に携わった18名の教員は、なぜ学習財を発明し続けることができるのでしょうか。この書籍がそのことを考える1つのきっかけになれば嬉しく思います。

ACCU ワークショップ 2019 「博物館における文化財写真の撮影技法」

なつかしい国での新たなつながり

ACCU奈良事務所所長 森本 晋



ACCU奈良事務所(ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所)は、ワークショップという名称の研修事業を、海外の国で毎年開催しています。日本に研修生を招いて行っている集団研修や個別テーマ研修では、多くの国の方に対して研修できるという利点がありま

すが、ひとつの国の方を大勢呼ぶことができませんし、研修で使用する言葉も、研修生にとって一番わかりやすい言葉とは限らないという問題があります。その点、現地研修では現地で広く通用している言語を用いて、一度に多くの関係者に研修できるというメリットがあります。

2007年にカンボジアで開始したワークショップは、今年で一巡して12年振りに再びカンボジアでの開催となりました。4月から現職を勤めます私は、もちろん初めてのワークショップ参加ですが、実はカンボ

ジアは前の職場(奈良文化財研究所)で1993年から数十回訪れた国でもあります。なつかしい国で、研修事業という枠組みを通して、研修生や関係機関との新しいつながりができたことを、大変嬉しく思います。

DATA
開催日: 2019年11月18日(月)～23日(土)
参加者: 18名
開催場所: カンボジア国立博物館(プノンペン)

国立博物館での写真撮影実習



世界遺産教室

①10月1日(火)、30日(水)、11月6日(水)、7日(木)、26日(火)、27日(水) ②ACCU ③奈良県立法隆寺国際高校、奈良県立香芝高校、奈良県立五條高校、奈良県立畷傍高校、奈良県立高田高校、奈良県立橿原高校 ④37名、320名、34名、20名、80名、320名

ユネスコスクール関東ブロック大会

①10月5日(土) ②玉川大学、ACCU ③東京都 ④約150名

インド教職員招へいプログラム

①10月13日(日)～20日(日) ②文部科学省、ACCU、インド連邦政府人的資源開発省、インド環境教育センター ③東京都、千葉県 ④12名

UNESCO Asia-Pacific Regional Learning Seminar Happy Schools: Learner Well-being and Social and Emotional Learning (Happy Schools セミナー)

①10月21日(月)～22日(火) ②ユネスコ・バンコク事務所 ③タイ ④45名

文化遺産の保護に関する国際会議の開催「文化遺産保護と地域コミュニティ」

①10月26日(土)～31日(木) ②ACCU、文化庁

③奈良、島根県大田市(世界遺産石見銀山) ④30名(参加者15名・オブザーバー15名)

The 3rd Sub-Regional Consultation for the National Coordinators of UNESCO ASPnet

①10月29日(火)～30日(水) ②モンゴルユネスコ国内委員会、ユネスコ北京事務所 ③モンゴル・ウランバートル ④1日目12人、2日目42人

中国教職員招へいプログラム

①11月10日(日)～16日(土) ②文部科学省、ACCU、中国教育部 ③東京都、千葉県、宮城県気仙沼市 ④25名

地域に根差したESDパイロットプロジェクト 公民館職員交流プログラム

①11月11日(月)～12日(火) ②ACCU ③岡山市 ④約20名

第13回全日本高校模擬国連大会

①11月16日(土)～17日(日) ②ACCU、グローバル・クラスルーム日本委員会 ③東京ビッグサイトタイム24ビル ④約300名

文化遺産の保護に資する研修(文化遺産ワークショップ)

①11月18日(月)～23日(土) ②ACCU、文化庁、カンボジア政府文化芸術省 ③カンボジア(プノンベ

ン) ④18名

地域に根差したESDパイロットプロジェクト 第2回プロジェクト会合

①11月18日(月)～20日(水) ②ユネスコ・バンコク事務所 ③タイ ④18名

第11回ユネスコスクール全国大会

①11月30日(土) ②主催: 文部科学省、日本ユネスコ国内委員会 共催: NPO法人日本持続発展教育推進フォーラム、福山市、福山市教育委員会、ACCU他 ③福山市立大学 ④約800名

ASPUnivNet第二回連絡会議

①12月1日(日) ②ACCU ③福山市立大学 ④39名(ACCU職員6名含む)

タイ教職員招へいプログラム

①12月2日(月)～8日(日) ②文部科学省、ACCU、タイ教育省 ③兵庫県、徳島県 ④15名

ESD推進ネットワーク全国フォーラム2019

①12月20日(金)～21日(土) ②主催: 文部科学省、環境省、ESD活動支援センター 共催: 独立行政法人国立青少年教育振興機構 ③東京 ④延べ424名

ACCU INFORMATION

第13回トッパンチャリティーコンサート 「ことばのしらべ produced by Masako Shindo」

凸版印刷株式会社様のチャリティーコンサートは、国際社会の課題である「識字能力の向上」を支援する目的で開催され、ACCUの女性のための識字事業をご支援くださっています。

今年度は新たな展開として、朗読コンサートを開催します。深く洗練されたクラシック音楽の演奏、そして日本屈指の「語り手」たちの朗読の饗宴、「ことばのしらべ」をお届けします。週末のひと時、美しい音楽と語りの時間と共に世界の識字について考えてみませんか。ご参加をお待ちしています。

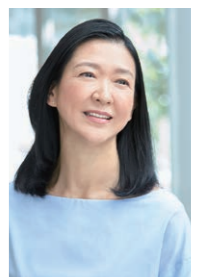
日時 2020年5月16日(土)16時開演、5月17日(日)14時開演
会場 トッパンホール (〒112-0005 東京都文京区水道1-3-3 最寄駅: 東京メトロ有楽町線江戸川橋駅ほか)
チケット料金 6,500円(税込)
申し込み方法 トッパンホールWEBチケット、トッパンホールチケットセンター、チケットぴあにて2月14日(金)より発売開始。



山根基世



中井貴恵



紺野美沙子



進藤晶子



川本嘉子
ヴィオリスト



上杉春雄
ピアニスト